

図3

教科における研究仮説		
実践への方策と具体的な手立て		
【国語】	【社会】	【数学】
国語科学習指導において、児童一人一人の持っている「よさ」を把握し、学習内容とのかかわりで教材に対する見方や考え方、興味・関心を生かす指導の在り方を工夫すれば、自分なりの「よさ」が意識され、さらに「よさ」が生かされることにより、基礎的・基本的な内容を身につけさせるとともに、一人一人の「よさ」を伸ばし、育てることができるであろう。	社会科学習指導において、児童一人一人の持っている「よさ」を把握し、学習内容とのかかわりから、児童の興味・関心、思考の型、行動特性、表現特性それぞれに応じて、授業の在り方を工夫すれば、基礎的・基本的な内容を身につけさせることができるとともに、一人一人の「よさ」を生かし、伸ばすことができるであろう。	課題解決の過程で、小集団学習を取り入れ、単元全体を通して自己評価、相互評価を行えば、基礎的・基本的な内容を身につけるとともに、一人一人の「よさ」を生かし伸ばすことができるであろう。
○児童一人一人の持っている「よさ」の把握 ・第1段階—親、教師、自分がとらえた「性格・行動」についての児童の「よさ」 ・第2段階—国語科学習における児童の「よさ」 ・社会的距離尺度法によるクラス内人間関係を見る調査 ○教材に対する見方や考え方 ・視点に立った自分なりの見方や考え方を書き表す「学習プリント」の活用 ・題材に対する見方や考え方を書きこめる「構想表」の活用 ○興味・関心を生かす指導の在り方の工夫 ・発展教材の提示と「作品選びカード」を活用した作品選択 ・題材の選択と書き方の選択 ・同一作品選択、設定題材ごとのグループ学習 ○自分なりの「よさ」の意識化 ・グループ構成員の「よさ」を「よさ」発見カードに記入する ☆友達から出されたもの ☆教師の觀察から出されたもの ☆自分でとらえたもの ・書かれた自分の「よさ」をまとめる ○「よさ」が生かされる ・児童の見方や考え方を記入した座席表を活用した意図的指名 ・自分の考えをチェックできるノートの活用 ・友達の見方や考え方と比較して、自分の考えを深める ○基礎的・基本的な内容を身につけさせる ・教材の理解、「構想表」の活用 ・思考の練り上げと価値の理解 ・価値の認識 ○一人一人の「よさ」を伸ばし、育てる ・ジェクタビリティの診断 ・「よさ」の意識化と「よさ」が生かされたかを見る診断	○児童一人一人の持っている「よさ」の把握 ・社会事象に対しての見方や考え方 ☆社会科学習への取り組みに関する調査 ☆興味・関心に関する調査 ・追究過程での特性 ☆思考類型に関する調査 (演繹・帰納、直観・反省) ☆学習適性に関する調査 (行動、表現) ○興味・関心、思考の型に応じた授業の在り方の工夫 ・思考の型を類型化し、それに応じた「学習コース」の設定 ・思考の型に応じた「学習の手続き」の活用 ○行動特性、表現特性に応じた授業の在り方の工夫 ・行動特性に応じたグループ内の役割分担 ・表現特性に応じた表現方法の選択 ○基礎的・基本的な内容を身につけさせる ・単元レベルで観点別に分析し、身につけさせる内容、能力を明確にする ・社会認識の深まりに応じて学習内容に変化をもたらせる ・見学・調査活動学習を増やし、個々の追究特性に応じた見学観点の設定 ○一人一人の「よさ」を生かす ・児童相互・グループ相互の「よさ」を認め合う活動 →「こんなところイロイロカード」の活用 ○一人一人の「よさ」を伸ばす ・「よさ」に応じた課題の設定や追究活動、まとめの活動	○課題解決の過程 ・自分の考えを多く引き出せる具体物の提示 ・自他の考えを区別するノートの活用(学習プリント) ・多様な解決方法を引き出せる小黒板・画用紙の準備 ・比較検討の場の設定 ○小集団学習を取り入れる ・小集団の編成 ☆学習活動の活性化 (4~5人の構成、リーダーを置く) ☆多様な考えを出せるようになる (学力のバランス、友人関係の配慮) ・一人一人が考えを出し合う ・それぞれの考えの「よさ」を認め合う ・見通しをもった課題解決 ○単元を通しての自己評価、相互評価 ・自分の「よさ」の意識化を図るために自己評価、相互評価 ・「学習状況カード」の活用 ☆学習への取り組み (興味・関心、意欲、意識・態度) ☆学習の理解度 ○基礎的・基本的な内容を身につけさせる ・週及効果による学習内容の定着 ・班活動による多様な考え方 ・自分の考えを生かす主体的な学習による理解の深まり ○一人一人の「よさ」を生かす ・小集団学習による能動的な学習への変容

- 【研究協力校及び検証教科】
- 福島市立福島第二小学校(国画工)
 - 福島市立吾妻中学校(英語科)

四、第三年の研究(平成元年度)

本年度は、第二年次の実践研究を踏まえ、研究協力校における教科を変えた検証授業を通して、実践的に主題を追究する。

『さ』を育てる学習指導の基本型』を図1、図2のようにとらえて実践に当たった。

(3) 三教科における研究実践

「研究仮説」を受けて、教科ごとの「教科仮説」を設定し、「実践への方策と具体的な手立て」を明らかにして

(図3) 実践に当たった。実践においては、一人一人の「よさ」を把握し、

生かすため、共通に「個人カルテ」の活用を図った。

① 小学校国語科(福島二小五年生)

国語科では、グループ学習や全体での思考の練り合いを通して、「よさ」の意識化の場を設定した。学習内容、友達の評価や教師の評価に自己評価をつきあわせ、「『よさ』発見カード」に

記入して意識化を図るものである。「よさ」は、読み取りや作文の構想において把握した「よさ」が生かされることにより、具体的な内容や活動を通じて意識化されるものとなつた。

② 小学校社会科(川俣南小三年生)

社会科では、児童の持つ「よさ」を生かすために、児童の思考に応じた四つの「学習コース」を設定し、コース

において、「よさ」は、読み取りや作文の構想において把握した「よさ」が生かされることにより、具体的な内容や活動を通じて意識化されるものとなつた。

社会科では、児童の持つ「よさ」を生かすために、児童の思考に応じた四つの「学習コース」を設定し、コース

ごとの「学習のてびき」を活用して学習を進めた。

児童の特性を生かすための処遇により、児童は自らの課題解決過程に沿った追究活動を通して、自分の「よさ」に気づき、「よさ」を發揮した学習を展開していた。このことは、学習のまとめとして行った児童の作品によって具体的に表れている。

③ 中学校数学科(吾妻中二年生)

数学科では、課題解決の過程において、一人一人の考え方を十分に生かし、それぞれの考え方の「よさ」を認め合い、見通しを持つて課題解決できるような「小集団学習」を取り入れた。

「個人で考える」班・全体で考える「個人で考える」という一連の学習の仕方を繰り返し積み重ねることによって、主体的な学習態度が身につき、能動的な学習へと変容がみられるようになつた。これは、「学習状況カード」の記録に顕著に示されている。

なお、本研究の第二年次の詳細については、研究紀要第七十五号(平成元年三月発行)を参照いただきたい。